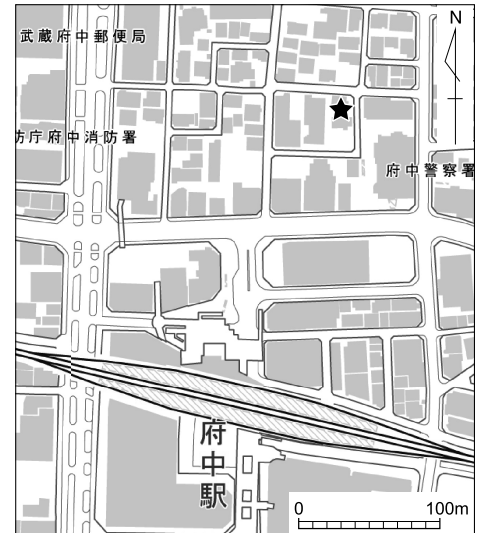
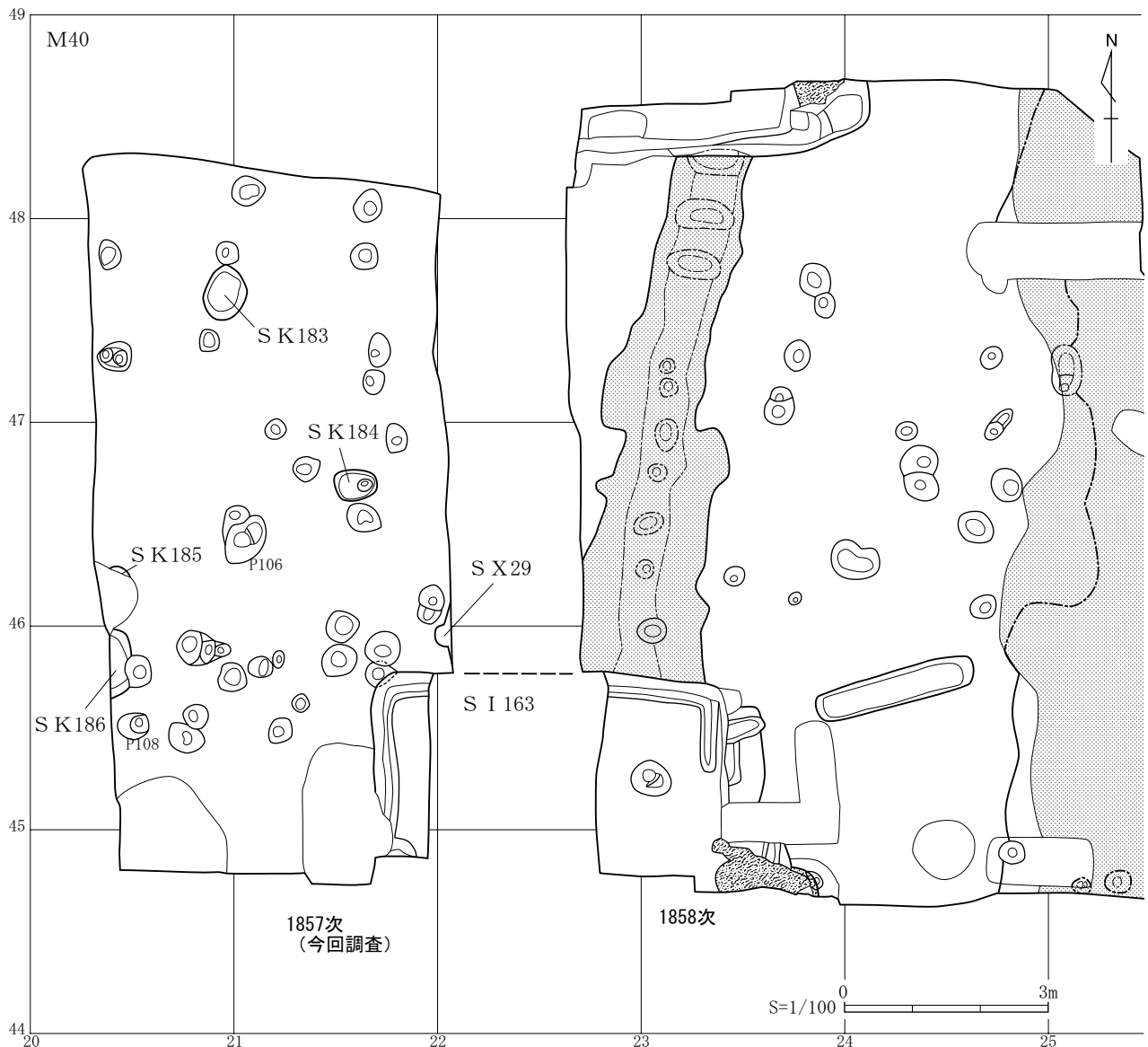


9. 1857 次調査報告

遺跡名	武蔵国府関連遺跡	
グリッド	M40-14次	
所在地	東京都府中市府中町1-11-7の一部	
現地調査期間	令和2年7月20日～令和2年9月25日	
面積	51.7㎡	遺物出土量 コンテナ1箱(1袋)
検出遺構	竪穴建物跡 1棟(M40-S I 163) [奈良・平安時代] 土坑 4基(M40-S K 183~186) [奈良・平安時代] その他の遺構 1基(M40-S X 29) [奈良・平安時代]	
調査担当者	佐藤梨花	
調査従事者	中條寛・大澤一重(府中市遺跡調査会), 鍛冶屋勝二・ 大迫敏美・駒村大輔・高田直・渡邊遥・有原寛・ 佐藤郁子・辻浩美・板坂聡・中鉢雅之・鶴谷真也・ 遠藤旭・小川麻紀・佐藤真弓・笠原知幸・清水英樹 (島田組)	



第 1857-1 図 調査地区位置図 (1/5,000)



第 1857-2 図 調査全体図

1 調査地区の概要

当調査地区は、武蔵国府関連遺跡の国府地域に位置し、京王線府中駅から北北東に約 230 m に、国道 20 号線（新甲州街道）から北約 85 m に所在する。地形的には、府中崖線から約 830 m 北に入った、立川段丘面上に立地する。周辺では古代の竪穴建物跡や掘立柱建物跡が多数見つかり、当調査地区は武蔵国衙の北方に位置する集落の一角を占める。

当調査地区では、現地表面から 1.2 m まで近現代の造成土を確認し、-1.2 m でⅢ層を確認した。遺構はこのⅢ層上面で検出した。安全のため、調査区の壁面はすべて土留めを行った。そのため、調査地区の壁面については記録していない。

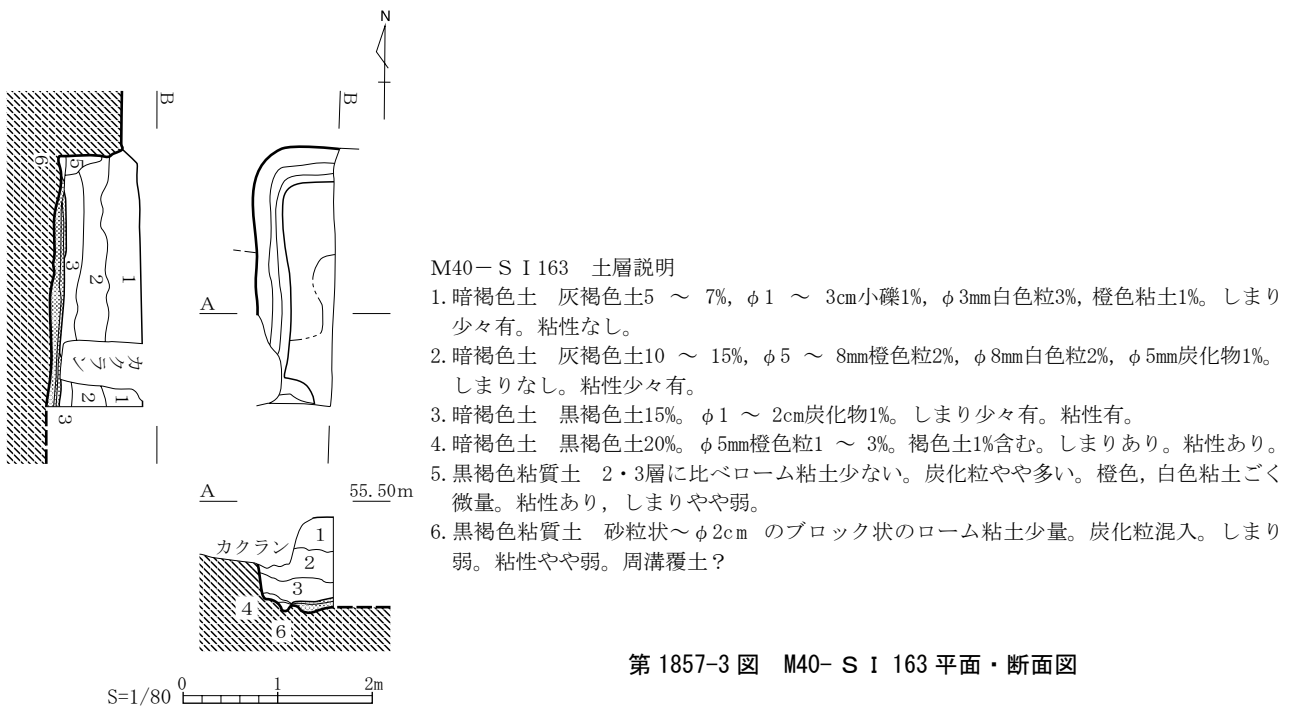
2 遺構と遺物

当地区では、奈良・平安時代以降の竪穴建物跡 1 棟、土坑 4 基、その他の遺構 1 基、及びピット数基を確認した。

竪穴建物跡

M 40 - S I 163 竪穴の東側と南側が調査区外に及ぶ。東に隣接する 1858 次調査地区で発見した竪穴建物跡と同一の遺構と考えられる。この遺構については、1858 次調査報告で詳述する。

遺物は土師器・甕 (01)、須恵器・坏 (02)、須恵器・長頸瓶 (03) が出土している。(01) は厚手の器壁を持つ小型の台付甕である。N 2 ~ 4 期のものと見られる。(02) の須恵器・坏は、底部外周へラ削りがある。N 3 ~ 4 期のものと見られる。(03) は肩部が「く」の字状に張る形



S I 163 ※計測値は 1858 次調査地区分も含む		竈位	置
グリッド	M 40 (21 ~ 23, 44・45)。	用	東壁。
プラン・主軸	方形? N-93°-E。	材	白色砂質粘土。
規模	南北 2.75 (3.00) 以上×東西 4.75 (5.75) m。	中央部軸長	202 cm。
壁	高さ最大 78 cm。ほぼ垂直に立ち上がる。	壁掘り込み	U字形に 119 (128) cm。
ピット	2個。	床掘り込み	楕円形に 9 cm。
周溝	東壁一部を除き廻る。幅 30 ~ 35・深さ 5 ~ 9 cm。	奥壁	立ち上がり不明。
床	全面貼り床。中央部のみ堅い?	煙道	不明。
掘り方	全体を平坦に掘り込む。	両袖部内幅	不明。
竪穴の備考	中央部, 南側は調査地区外。攪乱に切られ, S F 2, ピットを切る。	内方張り出し	左 12 cm・右不明。
		火床	建物床面よりやや低い。
		竈の備考	竈左側に奥行き 58 cm の棚状施設。

状でN期のものと見られる。

本遺構は、暗褐色土を主体とする覆土の様相と遺物から、古代（N期）の所産と思われる。

土坑

M 40 - S K 183 長径 0.82 m, 短径 0.63 m の楕円形を呈する。検出面からの深さは 0.11 m で、断面形は浅皿形である。遺物は、古代の土師器片が 1 点出土した。小片のため、図化には至らなかった。暗褐色土を主体とする覆土の様相と出土遺物から、古代の所産と思われる。

M 40 - S K 184 長径 0.62 m, 短径 0.46 m の不整形円形を呈する。検出面からの深さは 0.13 m で、断面形は底面に凹凸のある浅碗形である。遺物は、土師器片 3 点、須恵器片 8 点が出土した。いずれも小片のため図化には至らなかった。暗褐色土を主体とする覆土の様相や出土遺物から、古代の所産と思われる。

M 40 - S K 185 全体に大きく攪乱を受け、土坑の肩部のみ確認した。規模は、長径 0.33 m 以上、短径 0.7 m 以上で、平面形は不明である。残存する箇所を検出面からの深さは 0.17 m で、断面形は西側にやや段を有する碗形になると見られる。遺物は出土しなかった。暗褐色土を主体とする覆土の様相から、古代の所産と思われる。

M 40 - S K 186 西側は調査区外に達し、東側はピットに切られる。規模は、長径 1.04 m 以上、短径 0.3 m 以上で、平面形は不明である。検出面からの深さは 0.36 m で、断面形は碗形である。遺物は土師器片 27 点、須恵器片 19 点、土師質土器片 2 点が出土した。いずれも小片のため、図化には至らなかった。暗褐色土を主体とする覆土の様相や出土遺物から、古代の所産と思われる。

その他の遺構 M 40 - S X 29 南北 1 m, 東西 0.24 m の範囲で硬化ブロックを確認した。硬質面は調査区外に及ぶ。ごく一部の検出のため、その性格等は不明である。当初は 1858 次調査地区で発見した S F 2 の一部をなすと考えたが、硬質化した土の質感が異なり、同一ではないと判断した。遺物は出土しなかった。硬化した土は黒褐色土～暗褐色土を呈しており古代の所産と考えられる。

ピット

23 基検出した。規模は、いずれも長径 0.25 m～0.81 m, 短径 0.17 m～0.45 m, 深さ 0.16 m～0.64 m の範疇に収まる。建物等を構成するようなまともは見られない。それぞれ黒褐色土～暗褐色土を覆土の主体とする様相から、いずれも古代の所産と思われる。

遺物は、P 14 - 106 から土師器・坏 (4.5), 金属製品が、P 14 - 108 から土師器・甕 (06) が出土している。(04)・(05) は北武蔵型の坏である。底部と口縁部の間に稜線が入る。N 2 期ごろのものと見られる。(06) は「く」の字状に外反する口縁をもつ甕である。N 期のものと見られる。

表土からの出土遺物

表土からは土師器・甕 (07, 08) が出土した他、土師器片 140 点、須恵器片 62 点、土師質土器片 2 点、かわらけ片 2 点、その他 1 点が出土した。

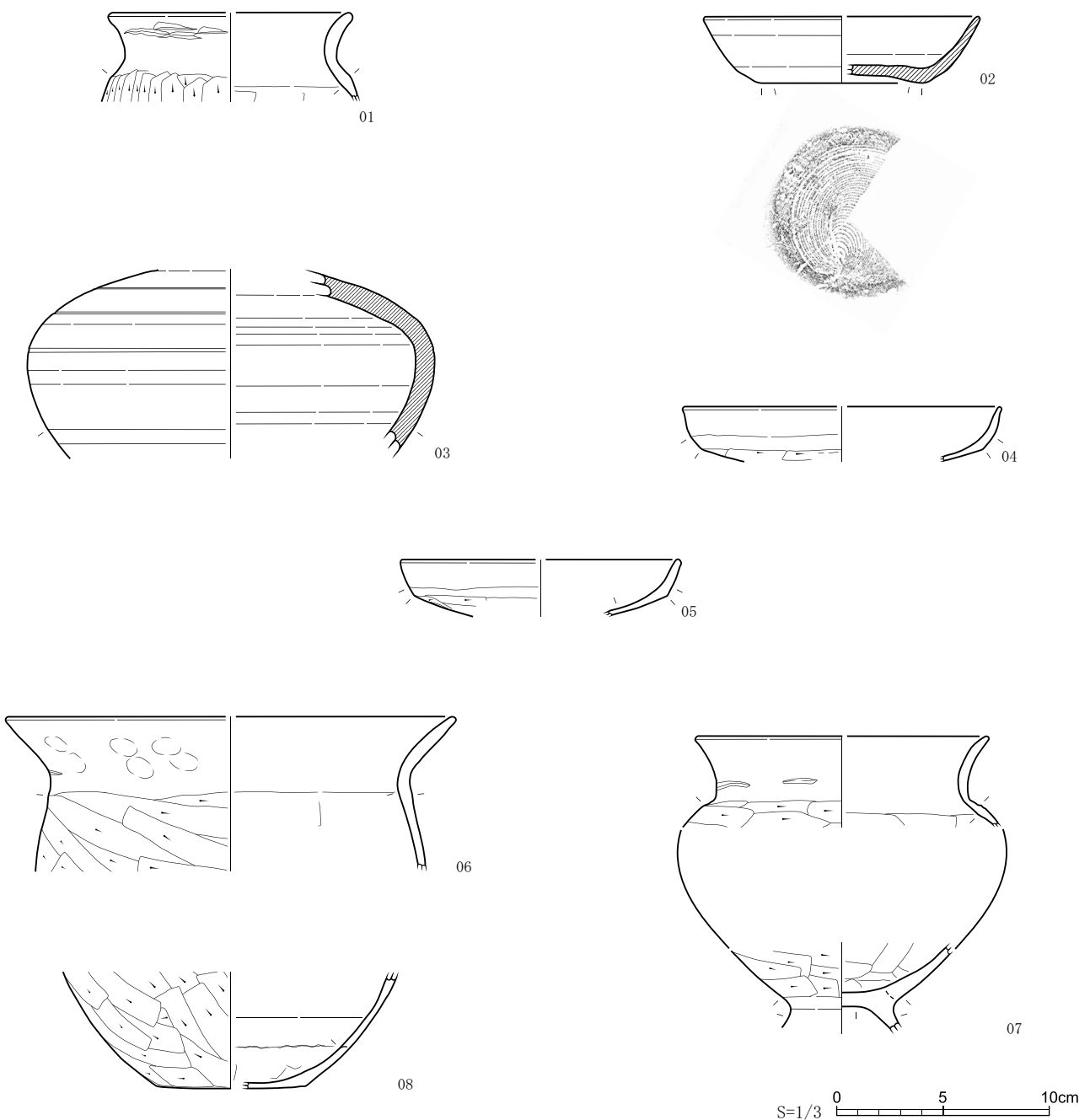
遺構No.	グリッド	平面形・規模 (cm)	備考
S K 183	M 40(20・21, 47)	楕円形, 長軸 82 × 短軸 63 × 深さ 11	
S K 184	M 40(21, 46)	楕円形, 長軸 62 × 短軸 46 × 深さ 13	
S K 185	M 40(20, 46)	不明, 長軸 33 以上 × 短軸 7 以上 × 深さ 17 以上	攪乱に切られる。
S K 186	M 40(40, 45)	不明, 南北 104 以上 × 東西 30 以上 × 深さ 36	西側は調査地区外。ピット, 攪乱に切られる。
S X 29	M 40(21・22, 45・46)	不明, 長軸 100 以上 × 短軸 24 以上 × 深さ 13	東側は調査地区外。

(07) は台付甕である。底部が台部と一体をなし、胴部は台部から輪状に剥離する。口縁の形状は「く」の字に近く、器壁はやや厚手である。N期後半ごろのものと見られる。(08) は平底甕である。底部からの立ち上がりがやや丸みを帯びる。器壁がやや厚手であり、N期後半ごろのものと見られる。

3 まとめ

当調査地区では、竪穴建物跡や土坑等の遺構が発見されている。遺構から出土している遺物はN 2～4期のものが主体であり、本調査地区の箇所では、国府成立期以降、奈良時代を中心とした営みが行われていたものと見られる。

今後、1858 次調査成果やその他既往の調査成果と併せて、当調査区周辺の営みについて、検討をすすめていきたい。



第 1857-4 図 遺物実測図

No.	遺構	器種	口径・器高・底径	特徴
1	M 40 - S I 163	土師器・甕	11.1・(4.2)・-	にぶい褐色。口縁部～胴上部 1/4 弱残存。口縁部一部に煤付着。
2	M 40 - S I 163	須恵器・坏	12.8・3.1・7.5	灰色。口縁部 3/8, 体部 3/8, 底部 5/8 残存。ロクロ回転順回り。重ね焼き。
3	M 40 - S I 163	須恵器・長頸瓶	-・(8.9)・-	灰色。胴部 1/8 残存。
4	P 14 - 106	土師器・坏	14.8・(2.6)・?	にぶい橙色。口縁部・体部・底部 1/8 残存。
5	P 14 - 106	土師器・坏	13.0・(2.7)・?	にぶい黄橙色, 明褐色。口縁部 1/4 弱, 体部・底部 1/8 残存。
6	P 14 - 108	土師器・甕	20.9・(7.3)・-	明赤褐色。口縁部 1/8, 胴上部少量残存。
7	M 40 - 表土	土師器・台付甕	13.5・(4.3)・-	明褐色, 内面黒褐色。口縁部 1/4 強, 肩部少量残存。内面一部煤付着。
			-・(4.3)・-	明褐色。胴最下部 1/2 強残存。外面剥離。
8	M 40 - 表土	土師器・甕	-・(5.5)・7.0	内面にぶい黄橙色, 外面にぶい褐色。胴下部 1/4 弱, 底部 3/8 残存。



第 1857-5 図
調査地区南側全景(南)



第 1857-6 図
北側完掘全景(南)



第 1857-7 図
M 40 - S I 163 床面全景 (北)



第 1857-8 図
M 40 - S I 163 掘り方全景
(北)



第 1857-9 図
M 40 - S I 163 断面 (西)



第 1857-10 図 M 40 - P106 遺物出土状況 (東)



第 1857-11 図 M 40 - P108 遺物出土状況 (東)



M 40 - S I 163 (01)



M 40 - S I 163 (02)



M 40 - S I 163 (03)



M 40 - ピット (04)



M 40 - ピット (05)



M 40 - ピット (06)



M 40 - 表土 (07)



第 1857-12 図 出土遺物



M 40 - 表土 (08)